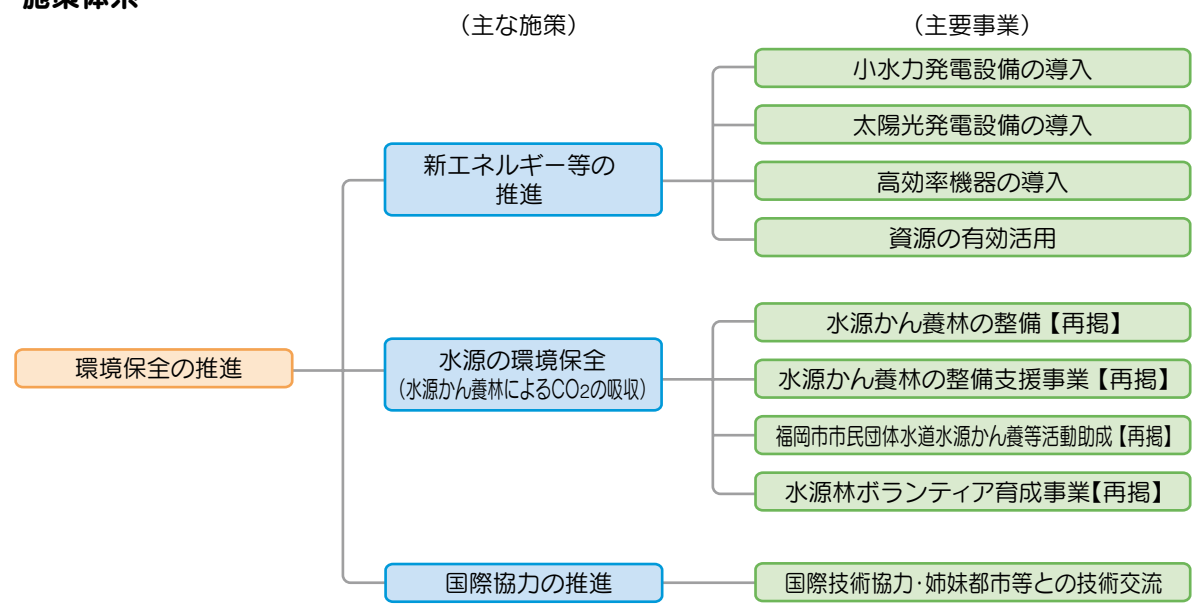


## 施策目標6 環境保全の推進

### 1 基本的方向

- 地球温暖化問題に対する社会的責任を積極的に果たしていくため、「福岡市水道施設エネルギー合理化ビジョン」に基づき、省エネルギー対策や新エネルギーの活用を推進します。
- 将来にわたって安全で良質な水を供給できるよう、豊かな水を育む水源の環境保全に取り組みます。
- 地球的規模の環境問題の解決に向け、本市がこれまで培ってきた「限りある水資源を有効利用する」節水技術などを活かし、アジア地域などへの技術協力を積極的に実施します。

### 2 施策体系



### 3 主な施策

#### (1) 新エネルギー等の推進

現在、特に多くの電力エネルギーを消費している浄水場や取水場については、効率的な水運用や施設の運転管理に努めるとともに、エネルギー使用効率の高い機器を導入することにより、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

今後も、省エネルギーを推進するとともに、小水力発電や、太陽光発電などの新エネルギーを導入し、環境負荷の低減を図っていきます。

そのほか、浄水汚泥や建設副産物の有効利用など、産業廃棄物の削減に向けた取り組みを引き続き行っていきます。

#### 《主要事業》

##### ① 小水力発電設備の導入

水源から浄水場までの高低差を活用した、小水力発電設備を乙金浄水場及び瑞梅寺浄水場に導入し、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図ります。



## ② 太陽光発電設備の導入

環境にやさしいクリーンエネルギーの一つである太陽光発電設備を夫婦石浄水場及び建設中の下水道の博多駅北ポンプ場との合築庁舎に導入し、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図ります。



## ③ 高効率機器の導入

多々良浄水場の更新時期にあわせて、高効率変圧器などの省エネルギー機器を導入し電力消費量の削減を図ります。

## ④ 資源の有効活用

浄水処理する際に発生する汚泥を、園芸用客土等に利用することや、建設工事で発生した土砂等を再生処理し、配水管の埋め戻し砂等として活用するなど、資源の有効利用を一層推進します。

## (2) 水源の環境保全（水源かん養林によるCO<sub>2</sub>の吸収）

京都議定書「地球温暖化対策推進大綱」では、整備した森林によりCO<sub>2</sub>の吸収量の確保を求めており、市内及び市外の水源かん養林の整備に取り組み、森林がCO<sub>2</sub>を吸収することにより環境の保全に寄与します。

### 《主要事業》

- ① 水源かん養林の整備
- ② 水源かん養林の整備支援事業
- ③ 福岡市市民団体水道水源かん養等活動助成
- ④ 水源林ボランティア育成事業

再掲

## (3) 国際協力の推進

環境にやさしい節水型都市づくりを通じて培ってきた経験やノウハウを活かしながら、国際協力機構（JICA）などと連携して技術協力を行うとともに、姉妹都市などとの技術交流を推進します。

### 《主要事業》

#### ① 国際技術協力・姉妹都市等との技術交流

アジア地域などへの職員派遣や研修生の受け入れを引き続き行うとともに、釜山広域市などの姉妹都市との技術交流を推進します。



4 成果指標

指標名	指標の意味	現状値 (H19年度)	中間値 (H24年度)	目標値 (H30年度)
福岡市水道施設エネルギー合理化ビジョンに基づく電力使用量削減 (%)	福岡市水道施設エネルギー合理化ビジョンに基づき、平成14年度電気使用量に対する削減率を示しています。	0	3	5
新エネルギー導入による発電出力 (kW)	新エネルギー（小水力発電・太陽光発電）などの環境にやさしいエネルギー設備の発電出力値を示しています。	0	193	193
水源かん養林によるCO <sub>2</sub> 吸収 (t-CO <sub>2</sub> /年)	水源かん養林を整備することによる環境保全効果としてのCO <sub>2</sub> 吸収量を示しています。	4,750 (※ 約3,400台)	5,100 (※ 約3,600台)	5,450 (※ 約3,900台)

※ 庁用車が1年間に排出するCO<sub>2</sub>量(1,388kg)に換算したものです。

